



六甲カトリック教会 教会報

2

No.602

教皇フランシスコの回勅を読む



(c)Vatican Media

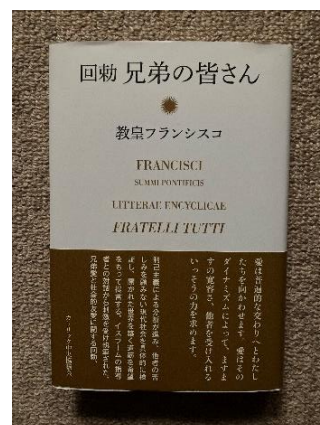
新春1月4日の新聞を開いてびっくりしました。これは初夢ではないかと。米英仏中ロの五大核保有国が「核戦争を回避」するため共同声明を発表した、というのです。ニュースは瞬く間に広がり、国連のグテーレス事務総長が歓迎の意を表し、被爆者や軍縮問題の専門家のコメントが次々と報道されました。醒めた見方もあり、非核保有国が唱える核禁条約へのポーズだとか、実効性が問題だという意見もあります。しかし五大核保有国が体制の違いを越えて共同声明を出したということは大いに意義があります。「核戦争に勝者はおらず、決して戦ってはならない」とのべ、人類の悲願である核廃絶を視野に入れた声明であると信じ

たいと思います。稀に見るグッドニュースです。

グッドニュースすなわち「福音」。

ふと思いました。フランシスコ教皇がたびたび発せられるメッセージや回勅は、世界の平和、安定を常に念願されています。地球上のさまざまな問題、戦争、災害、環境、気候変動、コロナに代表される疫病など、さまざまな機会にとりあげられ、社会の諸問題に細かく目を配られたメッセージをたびたび発せられています。2020年10月の回勅・「兄弟の皆さん」では「どの戦争も必ず、世界をかつての姿よりもいっそう劣化させます。戦争は、政治の失敗、人間性の欠如であり、悪しき勢力に対する恥ずべき降伏、敗北なのです。」(以下略)と厳しく述べられています。教皇の回勅を読むと、実に丁寧にわたしたち人類の存在について慈愛をもって語られていることがわかります。このたびの共同声明はひょっとして、教皇のお言葉が神のみ摂理にひびき、世界の指導者の上にふりかかったのではないかとさえ思われます。

回勅(Litterae encyclicae ラテン語)は数ある教皇の教えのうちでも長大で、特に重要なメッセージです。2015年5月の回勅は「ラウダート・シ」ーとともに暮らす家を大切にーでした。今回カトリック中央協議会は2020年10月に発せられた(fratelli tutti)を「兄弟のみなさん」と翻訳して昨年の11月に完成。「ラウダート・シ」も含め、教会の図書室で閲覧出来ます。(編集部)



新成人祝福式

1月9日(日)10時のミサで成人式の祝福がありました。ことしの成人は15人、うち6人が出席し、アルフレド主任司祭からお祝いのことばを受け、出席の6人はそれぞれしっかりと成人の抱負を述べました。記念品をいただき、おおぜいのカメラマンが囲む記念撮影となりました。コロナが相変わらず停滞して、新しいオミクロン株の急感染が心配される中でしたので、新年会を兼ねたパーティーは出来ませんでした。



でも、希望に満ちた新成人の前途に会衆のあたたかい拍手が送られました。出席者のお名前は以下のとおりです。

堀川晴加、辻原華、高橋裕心、衣笠紗由、佐藤剛、五十嵐駿（順不同 敬称略）

～成人の日を迎えて～



1月9日には、成人のお祝いをしていただきありがとうございます。成人の日を迎えて多くの方にお祝いの言葉をいただく中で、今まであまり気にとめていなかった成人するということが、人として成長することや社会の一員となることにおいてとても大きな意味を持つのだなと実感しています。また私が20歳を迎えるまでに、自分が感じていた何倍もの、家族や周りの方々からの愛や想いを受けて育ち、たくさんの方の支えのもとに成長できたのだということを改めて強く感じました。

私がこれから大人として社会の一員として生きていく上での抱負として、自分の意志を持って、それを自分の足で自分の力で叶えていける自律した大人になっていきたいという思いがありました。しかし1月9日のミサのアルフレド神父様のお話を伺って、自分の意思を自分で叶えていくだけではなく、周りの人達と一緒に、支え合いながら物事を成し遂げていくことも、これからの人生での抱負としていこうと思います。人と関わることに少し苦手意識のある私ですが、視野を広げ、人とのつながりを大切にしながら自分1人ではできないことにもチャレンジしていこうと思います。

私の受けた愛や想いを周りに返していきながら、感謝を忘れず夢に向かって一生懸命頑張ります。まだまだ社会の一員としても未熟ですが、暖かく見守っていただけると嬉しいです。

高橋 裕心



兵庫・生と死を考える会

～シスター高木慶子さんのお話を聞く

お話を伺おうと、シスター高木慶子さんをお訪ねしたときは折しも俳優神田沙也加さん急死のニュースが入った日でした。「ほんとうに痛ましいことです」と開口一番おっしゃいました。常にひとの生死を真剣にみつめ暖かく見守ろうとされるシスターらしいお言葉でした。

「兵庫・生と死を考える会」はシスター高木慶子さんのおひざ元で活動しています。各地で「生と死を考える会」が活動していますが、それを束ねる形で全国協議会があります。数十名の運営委員や顧問が名を連ね、会の運営を担っています。事務局は神戸市内にあります。シスターは全国協議会の会長であり、「兵庫・生と死を考える会」はその要の位置にあると言えます。

「兵庫・生と死を考える会」は1998年（昭和63年10月）に発足しました。当初は神戸・生と死を考える会と名乗っていましたが、現在では京阪神、四国にまで会員が増え、グローバルな意味で「兵庫・生と死を考える会」として活動しています。現在、会員は140名ほどで年会費は4000円です。病気や事故あるいは自死などで大切な人を失った人、心安らかに終末を迎えたい人、命の大切さを考える人、ターミナルケア、尊厳死、常に身近なテーマである「生と死」を正面

から見据え、人生を有意義にまっとうしたい、という人々のあつまりです。人間のいのちを見つめ、何が幸せか、に関わるテーマを追求します。

シスターは悩みを抱えた人に接するには先ず「聴く」ことだとおっしゃっています。月に一度、第3日曜日の午後、六甲教会の会場で各方面からの専門講師の講座を聴いたり、分かち合いをしてきました。この講座には会員は1回500円、会員でなくても700円で聴講できます。また兵庫こころのケアセンターはHAT神戸にあり、ここでも活動を行っています。新型コロナウイルスのまん延のため、現在は六甲教会の講座は中断したままです。

2020年の2月に2日間にわたって上智大学大阪キャンパスと夙川教会で全国大会が開かれました。各地から会員が参集し分かち合いを行い、夙川教会では将棋の加藤一二三さんの講演などがありました。現在はシスター高木のズームによる講話が続けられています。you tubeなどで聴くことが出来ます。

戦争や災害は地球上で跡を絶たず、コロナという疫病に晒され、生と死の狭間を実感しているのが現在の私たちです。シスター高木慶子さんは36年間この活動を続けて来られ、まだまだお元気で全国を飛び回っていらっしゃいます。

2月主日ミサのグループ別時間(10:00, 11:30)

その他の時間（土曜日18時、日曜日7時半）はどなたでも与れます。

6日（日）	10時	第1グループ	27日（日）	10時	第2グループ
	11時半	第2グループ		11時半	第1グループ
13日（日）	10時	第2グループ	第1グループ	灘北1 北. 三田 灘北2 阪神 灘南 神戸西	
	11時半	第1グループ			
20日（日）	10時	第1グループ	第2グループ	灘西. 中央 東灘北1 東灘北2. 芦屋 東灘南	
	11時半	第2グループ			

※ミサの時間帯については教会からの最新情報にご注意ください

追悼

昨年 12 月にご帰天されたコリンズ神父さまへの追悼のことばが寄せられました。サンタクロースの扮装がよく似合う神父様が、クリスマス直前にご帰天されたのも何かのしるしだったのかも知れません。



ありし日のコリンズ神父様

§ コリンズ神父様を偲んで §

コリンズ神父様がクリスマスの前日、12 月 23 日に天国に召されました。コリンズ神父様が私達を助け、お働き下さったことに感謝致します。神父様は十数年前、私の母校、京都、藤の森にあるヌヴェール愛徳修道会の聖母女学院短期大学の学長として、週末だけ六甲、週日は京都という生活をされていました。毎週、日曜日のミサが終わると、車で六甲道駅まで送ってもらい、JR で京都に戻られました。自炊もしておられたようです。学長を引かれた後、2,3 年は六甲教会の協力司祭としてザビエルハウスにお住まいでした。寒くてもセーターはあまり着られず、幅広の素敵なサスペンダーをいろいろ変えてお召しでした。カラフルなサスペンダーは真っ白な長いお鬚によくお似合いでした。

私達信徒には月 1 回「ヨハネによる福音書」の勉強会をして下さいました。40 名くらいの方が参加しました。神父様はよく「信じますか」という言葉をお使いでした。心に残ったのは 12 章 36 節「光のあるうちに歩きなさい。光のあるうちに、光の子となるために、光を信じなさい」、12 章 44 節「私を信じる人は、私をお遣わしになった方を信じるのである」という所です。また、聖霊に対する罪は絶望です。罪は神を否定すること、愛を拒む事、闇の中を歩むことです。そして、私達は許された罪人です。とおっしゃいました。

東京に発たれる前、神戸の街をよく見渡せる我が家でささやかな送別会を致しました。お肉とスコッチウイスキーがお好きで、よく食べよく飲み、「おいしかったよ」と楽しんでくださいました。

コリンズ神父様が一番忙しくなる時期はクリスマスです。亡くなられる前も、イグナチオ教会の子供達の所に、そのように飾り立てたご自慢の電動車椅子に乗ってサンタクロースになって現れ、お仕事を無事に済ましておられたそうです。神父様はどんな人でも受け入れてくださるサンタクロースでした。また、1 年前のオマリー神父様のお葬儀で、オマリー神父様をジャックと呼び、心温まる弔辞を送られた事も思い出します。今頃は神様のもとで、ご一緒に私達を見守ってくださっていることでしょう。感謝とともにご冥福をお祈り致します。

インマニエラ 福島 きよ子

§ コリンズ神父さんの思い出 §

記憶にまだ新しいオマリー神父の葬儀ミサでの、コリンズ神父さんの説教記録に接した僕は「オマリー神父が我々にとっていかに得難い恵みであったか」を確認し、また「コリンズ神父さんが六甲教会のミサでされた感動の説教の数々」のことを思い出して、心を激しく揺すぶられた。

僕の知るコリンズ師は、日本語で日本の小説を読みふけている姿が印象に残る文学者で、詩人の心を持つ人だった。彼は説教を、一番言いたいことを、初めの一言二言で表現してから始めた。意表を突く核心を突く切り口の日本語が見事で、毎回ワクワクしながら待ち、そして期待に違（たが）

わず僕は心をわしづかみにされた。サンタクロース勝(まさ)りの自慢の白髭(しろひげ)で、舞台俳優ばりの演出をしながら、ちっとも芝居がかって見えないのは、人間の大きさだろう。

コロナ騒動の前、別用で訪ねたイグナチオ教会で、たまたま師の車椅子姿に出会った。立ち話をして別れるとすぐ横の信徒会館入口に「コリンズ神父叙階・年祝賀会」の大きな垂れ幕がある。中をのぞくと会場いっぱいの参加者の中に、イグナチオ教会の主任神父から「いちどロヨラハウス(イエズス会員用養老院)に入った神父

で、また出てきたのは彼が初めてです」といじられているコリンズ神父さんが居た。世話になった師が事故にあったことも祝賀会も知らないままに僕は危うく神戸に帰るところだった。

写真は、僕が JICA のシニアボランティアで海外赴任中の食事会の様子だ。それから十年足らずのうちに、コリンズ、オマリー、妻の三人が帰天された。

塚崎 雄一



“祈りと音楽の集い”への招待

2月13日(日)午後2時半から、「祈りと音楽の集い」が開かれます。参加者数は限定80人まで、事前に教会事務所で整理券を発行します。整理券をもってご参加下さい。出演はオルガニストのジャン・フィリップ・メルカールトさん。当教会で2度目の演奏になります。コロナ対策を万全にするため、



参加希望者は当教会信徒及び限られたお知り合いの方とし、申込み時にお名前と連絡先を明記していただきます。案内ちらし(整理券申込み書つき)があります。感染状況によっては中止もあります。

なお、中止の場合は申込者に個別に連絡します。

新しい「ミサの式次第と第一～第四奉献文」の変更 冊子紹介



ミサの式次第と奉献文が一部改定され、今年の待降節第一主日(11月27日)から新形式になります。文言や仕草など、かなり広範囲に変更されています。たとえば、司祭「主は皆さんとともに」会衆「また司祭とともに」という交唱の部分は、会衆

「またあなたとともに」と代えられます。それら変更箇所の理解のため、日本カトリック典礼委員会発行の冊子(写真)が出来ています。A5判96ページ税込み286円。カトリック書店などで購入出来ます。おいおい教会でも解説が行われると思いますが、ご参考まで。

趣味百景



「KSC 男声合唱団」での活動

蛭田 武



私のいくつかの趣味の中に「コーラス」があります。4年前に神戸シルバーカレッジに入学した時、すぐ入部したのが「男声合唱団」です。部員は約 50 名強で、平均年齢 76 歳のおじいさん合唱団ですが、全国長寿シルバー合唱コンクールでも「銀賞」を取った実力のあるクラブで、このコロナ禍でも毎週木曜日プロの指揮者、ピアニストの下で 3 時間の練習に励んでいます。テナー 1、テナー 2、バリトン、ベースの 4 部合唱で、レパートリーは、本格的な男声 4 部曲から抒情歌、ポピュラー曲まで幅広く歌っています。

私にとっても声を出すことは、脳の活性化にもつながり、高い音域が出にくくなっている昨今ですが、テナー 1 で頑張っています。日頃は老人施設や地域のイベントにも出向き歌を披露するのですが、今はコロナ禍で中止しています。コロナが収まれば、今年の秋には神戸文化ホールの大ホールで「定期演奏会」が行われる予定で、それに向けて現在プロの厳しい指導の下で頑張っています。是非、その節はご来場ください。



前回の「定期演奏会」



今月の聖人 2 月

☆聖ペテロの使徒座☆



2 月 22 日は聖ペテロの使徒座の祝日です。使徒座とは原語はギリシャ語で「カテドラ」英語の「カテドラル」と同じ。ペテロはイエスの弟子の筆頭、「あなたはペトロ。わたしはこの岩（ペトロ）の上にわたしの教会を建てる」（マタイ 16 章 18 節）とイエスに言われ、イエスの後継者としてバチカンの丘に使徒座の礎を築きました。すなわちカトリック教会の最初の教皇としての使命を与えられました。初代教皇ペテロから現在のフランシスコ教皇まで 2000 年の年月を経て継承されています。ペテロは正直で直情的。イエスが全幅の信頼を置いた人物でありながら、人間的な弱さも見せる好人物として聖書では描かれています。（詫 洋一 記）

画像はルーベンス画「聖ペテロ」

一年のうちで最も寒い月に入った。週に何回か朝ミサ前、6 時に教会入り口の鉄門を開ける。まだ暗い中を軋みながらゴトゴトと門扉がひらき、近くの祥龍寺の鐘の音が響きわたる。一日の荘厳な始まりを、共に祝うかのようだ。最近、雪が舞うことも稀ではない。すっかり葉を落とした木々の梢を寒風が吹き抜ける中、金属の部分を素手で触れるとひつつくように感じる。二月はやはり一番さむい月だ。日本にキリスト教を最初に伝えたザビエルが山口から堺を経て、京都のミヤコまで旅をしたのは極寒の時だった。道中はどれほど難儀だったことだろう。ミヤコの荒廃、全く権威を失なったミカドや貴族の有様をつぶさに体験し、また儀礼や風習の違いなどにも妨げられ、失意落胆して彼は山口に帰らざるをえなかった。しかし彼の書簡や見聞はヨーロッパ教会を発奮させ、命の危険を冒しても多くの若者が宣教師として東洋世界を目指し、今日も事情はさほど変わっていない。

さて二月の教会のカレンダーを見ると、注目される祝日や記念日が実に多い。二日には主イエスの奉献をはじめ、高山右近や日本 26 殉教者、11 日にはルルドの聖母マリアの祝日が続く。日本には余りなじみがないが、殉教者である聖ブラジオや聖ポリカルポの記念も行われる。私の修練期にはまだ無かったが、京都から長崎まで二人ずつ歩いて巡礼する実習があった。日本 26 聖人殉教者にならって、かれらの信仰の深さや堅忍に少しでもあやかり倣うためである。今日でも冬のさなか、多くの困難に耐えて長崎への道をたどる人々が後をたたないと聞いている。こうして日本の教会は、数多

くの殉教者たちの命がけの労苦や流された尊い血潮に潤され、富まされて今日を迎えているのだ。

26 人の殉教者たちは 1597 年 1 月 3 日に京都を引き回され、2 月 5 日午前 10 時に西坂で十字架に縛り付けられ、胸を槍で刺し貫かれて立派に信仰のアカシ人となった。秀吉の禁教令に背いて公然と宣教活動をおこない、どのような威嚇も制裁も彼らを黙らせ恐れさせることは不可能だった。真冬のさなか凍えながらもイエスの道を雄々しく歩み続け、人々の嘲笑と敵対にさらされながら誰も何もためらわせひるませ無かった。私たちの恵まれた平和な日々から考えると、彼らの長崎への道のりは日々余りに過酷で人間離れしている。まさに神の恵みの奇跡という以外にほかの言葉を思いつかない。

少し時代が前後するが、福者・高山右近の生涯について、何をいえばよいのか。驕慢な信長、狡猾な秀吉からも高く評価され重任された大名、一切をなげうってキリシタンの信仰に殉じた生涯、国外追放の処分にも動じることなく 62 歳でマニラで客死することを選んだ。彼は自分の生涯を振り返ってみて、いったい何を想い、どのように受け止めたのだろう。ヒョットするとシメオンの賛歌を声高らかに唱えたのかもしれない。いずれも私の現実や日々の思い、また不平や不満たらたらの人間関係からは、殉教者たちは余りに遠くかけ離れている。私が殉教者の子孫というには、いくら何でも厚かましくて面はゆい限りだ。全ての人々の救いを望まれ神よ、私たちがイエスの福音にいつも従う道を選び、すべてを捨ててもあなたの教えに殉じて、たくましく生きることが出来ますように。

合 掌

【 2022 年 2 月予定表 】

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
			主の奉献	福者ユスト高山 右近殉教者	初金曜日ミサ 7:00 10:00 聖体顕示 ◎灘西・中央	日本 26 聖人殉教者 結 婚 準 備 セ ミ ナ ー ～3月26日
6	7	8	9	10	11	12
年間第 5 主日 小教区評議会 13:00～					世界病者の日 教会受付休み ◎灘南・神戸西	
13	14	15	16	17	18	19
年間第 6 主日 祈りと音楽の集 い 14:30～					◎灘北 2・阪神	
20	21	22	23	24	25	26
年間第 7 主日		聖ペトロの使徒 座	教会受付休み		◎東灘北1	
27	28					
年間第 8 主日						

◎は掃除当番地区です

次回3月号の発行は、2月26日(土)です。 原稿は毎月15日ごろまでに教会受付へ直接ご持参 いただくか、FAX やメールでお願いいたします。皆様 からの原稿をおまちしております。あわせてご意見も お寄せください。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp	六 甲 カ ト リ ッ ク 教 会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電 話 078-851-2846 F A X 078-851-9023 E-メール renraku@rokko-catholic.jp 発行責任者 アルフレド・セゴビア 編 集 広 報 部
---	--